



今週は砂丘間低地およびワジ（水涸川）の特徴に目を向けてみましょう。砂丘間低地は砂丘と砂丘の谷間の低地で、砂丘の基盤が表面に現れたと言った感じです。その表面は砂質ではありますが、砂丘砂より粒径は細かい反面、下層土は堅くしまっていることが多く見られます。一方、アルアイン周辺のワジは主に東から西（オマーン山脈から砂丘の方角）に向けて流れています。流れているといっても、水が流れることは1年に1度あるかないか程度です。ワジにも砂丘地に近い所のワジでは砂で覆われており、一方平地や砂丘間低

地などを流れるワジでは比較的粒径の細かい表土に覆われています。砂丘間低地の代表的植物は *Zygophyllum hamience* や *Prosopis cinerea*、ワジ周辺では *Calotropis procera*、*Citrullus colocynthis* や *Prosopis cinerea* などですが、オアシス周辺のワジでは *Schweinfurthia papilionacea*、*Casia italica* などが見られます。

### 1) *Calotropis procera*



特徴：大きさは高さ5 m程度までなる。新枝は白く、皮膚がきれいだが、古い枝は褐色で皮膚があらひ。葉は大きく18cm程度になる。花は3月から9月に咲き、花弁の先は紫、内側が白くなる。果実は裂果で、種子が登塾するとはじけ、毛のついたそう果を飛ばす。

生育条件：はっきりした情報はないが、一般的にワジや比較的  
低地で、水の集まりやすい場所によく見かけられる。土壌  
はあまり選ばないようだ。

用途：乳液は基本的には非常に有害。しかし、資料には薬用として重要とされ、使用方法によってはできもの、化膿傷、湿疹、飛び火などに使われる。しかし、効用がきついで使用には注意。昔、毒矢として利用されたこともある。灰は火薬の材料。未熟の実、花はラクダ、山羊が食用。



その他：一般的に、乳液は有毒とされ、さわるとはタブー視されている。

### 2) *Zygophyllum hamience*



特徴：湾岸地域に広く分布している植物。通常50cmから1 m程度の半球状の形をしているが、大きい物は3 m程度に広がる。葉は緑もしくは黄緑、非常にジューシーで摘むと塩っ辛い液が出てくる。花は冬場（9月～3月）に見られ、果実は2 cm程度の葉に似た形状をしている。



生育条件：非常に耐塩性の強い植物である。サブハなど塩集積地でも見られる。

用途：具体的は用途については記述は少ないが、枯れ木は燃料。また、ときどきラクダが新芽を食べているのが見受けられる。